

N P O 法人

子どもの虐待防止 ネットワーク・かがわ

ニューズレター No.29



体罰を使わないことが当たり前になったら・・・

しつけとは、子どもの人格や才能を伸ばし、社会において自立した生活を送れるようにすること等の目的から、子どもをサポートして社会性を育む行為です。

子どもにしつけをするときには、子どもの発達しつつある能力に合う方法で行う必要があります、体罰で押さえつけるしつけは、この目的に合うものではなく、許されません。

どうすればよいのかを言葉や見本を示す等の本人が理解できる方法で伝える必要があります。

厚生労働省 体罰等によらない子育てのために(素案) より

こわいから、痛い目にあうから、怒っているのは分かるけど、どうしてなのかわからない、納得できないまま「ごめんなさい」と言われる・・・。体罰はしつけの方法として効果がないばかりか、子どもたちのすこやかな成長や発達を損なうことが報告されてきました。大人世代が体罰を通じて伝えられたしつけ・教訓・愛情は、体罰という方法でしか出来なかったのでしょうか？ 指導したり、愛情を伝える方法は他にもあるのではないのでしょうか？ 体罰はダメと知っていても「じゃあどうすればいいの？」と当惑している方も多いでしょう。

まずは子どもの発達について知り、出来ることとまだ難しいことを分けることが大切です。発達上難しいことには環境を整える必要があります。例えば、何でも口に入れる時期には、口に入れると危険なものを赤ちゃんの手の届くところから除くとか。他にも、対話による解決を実践する、子どもに自分で考えて解決する力を育てる、怒りがこみ上げてきたら一呼吸置く、子育てについての話し相手や相談先をもつ、など。子育てに直接かわる人だけでなく、社会全体で体罰を使わないことへの共有が必要です。

体罰、いじめ、先輩やコーチからの暴力的な指導、パワーハラスメント、DV、モラルハラスメントなどは、“上の立場だから下には有無を言わず従わせて当然”として行われます。もし、体罰を使わないことが当たり前になったら、体罰や言葉の暴力がなくなり、いじめ・非行・DV・ハラスメントもなくなると、私は思うのです。

NPO 法人 子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ 副理事長 橋本美香

活動報告

2021年度は、赤い羽根共同募金“虐待を防止するためのプロジェクト募金”並びに、多くの方々からのご寄付により活動することができました。また2022年1月～3月実施の“子どもの虐待を防止するためのプロジェクト募金”は2022年度の活動に使わせていただきます。心より感謝申し上げます。

－「ひだまり」－（子どもの虐待防止に関するグループワーク事業）

子育てに悩んでいる母親が安心して悩みを話せる場です。参加者が対等な立場で話し合い、悩みを共感し合うことで自助力を高め、自分の問題を自分で解決できるように支援します。

原則毎月第1土曜日 10時～11時30分に開催、参加費は母親・子ども 各100円です。

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、県内の感染状況を踏まえ中止や参加家族数の制限をしました。このため予定していた10回のうち5回のみの開催でした。

利用者は、延49人（母親15人、子ども34人）でした。

コロナ禍で子育ての悩みは増えており、今後も感染対策や工夫をして開催していきたいと思います。

言葉が遅いなど発達のこと、イヤイヤ期、偏食、入浴、寝かしつけ、入学準備、きょうだい喧嘩 etc. ママの悩みはつきません。そこで先輩ママからの「あの時は大変だったけど・・・」「こうしたら良かったよ」という体験談を聞いて、「そうなんだ」「やってみます」と表情が明るくなります。

どんな工夫をしたか、いつごろ出来るようになるか見通しを知ることは、とても大切です。

－勉強会－（子どもの虐待防止に関する啓発及び推進事業）

虐待・性被害についての勉強会

2020年度に始めた勉強会ですが、新型コロナウイルス感染症流行のため中断していました。2021年10月から再スタートし3回実施しました。次年度も継続します。

大人の性暴力被害者の方が声をあげ、性被害についての報道をよく目にするようになってきましたが、基本的な対応の仕方など知られていないことばかりです。性暴力は決してまれではない現状、子どもへの性暴力は被害を受けたことに気づくまで時間がかかることなど、専門家でなくても性被害に気づき手を差し伸べるために必要なことを勉強しています。

『子どもへの性暴力 ～その理解と支援～』誠信書房、藤森和美・野坂祐子 編

DV加害者プログラムについての勉強会

児童虐待とDVは深く関連しています。DV被害者対応が十分とは言えない現状において、DV加害者プログラムを学ぶ？と思われるかもしれません。被害者対応は“DV加害者は変わらない”ことを前提としていることが多いのですが、このDV加害者プログラムの目標は、加害者が暴力をやめ、暴力に代わる行動を学び、実践していくことです。

『DV加害者プログラム・マニュアル』RRP研究会 金剛出版



一子育て講座一



会場 高松市ふれあい福祉センター勝賀

聞いてみよう！子育て講座

2022年11月11日

講座 子どもの発達に応じた関わり方 講師 西岡敦子 先生 (医療法人社団仁泉会西岡医院小児科)	🌸 受講者の感想（抜粋） ・自分の幼児期を振り返り愛された記憶が想起できて幸せな気持ちになった。 ・なぜイヤイヤ期に至るのか脳の仕組みや発達過程を知ることができ子に対する気持ちや行動を変えることができそう。 ・子どもを一人の人格として尊重し、面倒くさがらずに説明も丁寧にしていこうと思う。
---	---

聞いてみよう！子育て講座パート2

2022年3月25日

講座 子どもの身体発達と口の健康 講師 本田里恵 先生 (歯科衛生士・身体調和支援体操作アドバイザー)	🌸 受講者の感想（抜粋） ・出産前に聞いておけば良かったと思うことばかり。 ・離乳食は月齢にとらわれず子どもの発達をみながらすすめていくことが大切だと思った。 ・すぐに結果を求めないように“待つ”気持ちで子育てします！
---	--

これからの支援に役立てたい！

本田里恵先生から、虫歯予防だけでなく、子どもの成長の為に口の機能を育てることが身体の発達や口の健康に必要なことの具体的な説明がありました。

虫歯を作らない食生活や歯磨きの仕方について、子どもの口の機能や姿勢の悪さ(猫背)が離乳食を進める上で、その後の身体の成長にも大きく関わること、さらに便利な育児グッズには発達を妨げるものがあることを知りました。また、離乳食は発達に合わせた食べさせ方があることや、おはしを持つことを急がせないなど育児のポイントを知りました。

そして、昔ながらの生活習慣やわらべ歌、また自由な外遊びが発達を促すと聞き、今後の支援に役立てたいと思いました。

ホームスタート・おりーぶ ホームビジター 山本美雪



妊娠期からの家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・おリーぶ」

- 内 容：出かけられない家庭に、研修を受けた子育ての先輩（ホームビジター）が訪問し、フレンドシップな関係でサポート（傾聴と協働）をします。
 - 利 用 料：無料
 - 対 象：妊産婦や未就学児のいる家庭
 - 地 域：香川県内
 - 支援回数：1週間に1回2時間程度、4回ほど訪問します。（多胎児は8回ほど）
- 問い合わせ・申し込み：☎080-2985-1556

[eメール kcavn9999@siren.ocn.ne.jp](mailto:kcavn9999@siren.ocn.ne.jp)

2021 年度

利用者（世帯数）63（その内、妊婦 10 、多胎家庭 14 ）、 総訪問回数 353 回
居住地（世帯数）高松市 52、坂出市 3、三豊市 4、観音寺市 1、三木町 1、宇多津町 2

I 高松市委託事業

①養育支援訪問事業

○訪問状況：利用者（世帯数）52 、総訪問回数 288 回

○ホームビジター養成講座の開催

地域の子育て経験者が9日間研修を受けて家庭訪問ができるようになります。

2021 年度は牟礼町内で行いました。コロナ禍で会場確保が難しかった昨年ですが、高松市の協力で中断することなく全講座を実施することができ、9 人の新ホームビジターが誕生しました。

○ホームビジターフォローアップ研修

ホームビジターの資質の向上のために年2回行いました。

②多胎妊産婦支援事業

- 内 容：育児支援・家事支援・外出支援
- 利 用 料：無料
- 対 象：高松市内の多胎妊婦・多胎家庭
- 支援回数：年間 10 回・3歳まで最高 30 回

○訪問状況：利用者（世帯数）8 、総訪問回数 33 回



Ⅱ. 三豊市委託事業

① 産前産後サポート事業

西讃地区での訪問活動は、三豊市 観音寺市を中心に中讃地区へも訪問しています。

2014 年度よりホームスタートが始まり、オーガナイザーとして 2016 年度からこれまでに 30 件ほどの依頼がありました。そのうち妊産婦の支援は 5 件ほどとなっています。

2021 年度は、初めて三豊市の産前産後サポート事業の委託を受けることとなり、ホームビジター養成講座を開催することができ、新たに 5 人のホームビジターが誕生しました。

今後も利用者に寄り添いながら また保健師さんと連携をとりながら向き合っていきたいと思います。

オーガナイザー 窪鈴佳

※オーガナイザー：利用者とホームビジター、他機関との調整役



新オーガナイザーが 2 人誕生

「利用者の笑顔を目指して」

今まで家族間で解決しなくてはいけないとされていた事が、様々な事情でクリアできない家庭が多いなあと感じています。子どもや子育て中の方のリスクができるだけ最小限になるように、寄り添い、サポートに努めていきたいです。

まだまだコロナ禍ではありますがもっとホームスタートを知って利用して頂き、オーガナイザー、ホームビジター共に、ホームスタート・おりーぶの仲間みんなが、利用者の笑顔を自身の喜びと感じていけたら、そしてホームビジター自身にも笑顔になってもらえるよう努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

新オーガナイザー 浅田裕美

「子育てはひとりで出来るもんじゃない！」

保育士経験はあった私でも、自身の子育てをしてみて強く感じたことのひとつです。

1 人きりでの長時間の育児は、精神的にも体力的にも到底不可能なことでした。そういう時期の家庭と、「“孤育て” を解消したい」という想いのボランティアを繋ぐのがホームスタートです。

過ぎてみると特に乳児期は本当にあっという間で、久しぶりに抱かせていただく赤ちゃんもなんと尊いことでしょう！

「自律もしながら、頼り頼られ、支え合う」ことのハードルが下がり、「育児も地域社会全体でできる」といいなあと思っています。

新オーガナイザー 毛利理奈



📖 新ホームビジターさんから
「研修会に参加してよかった」「訪問して楽しかった」など
感想をいただきました。



私自身が引っ越しをしながら子育てをしてきたこともあり、その経験が誰かのお役に立てるならと、ホームスタートに参加しました。

傾聴や協働といったことがどこまでできるかな？と思っていましたが、実際に訪問すると子どもがいることで会話が自然に生まれ、不安はすぐに消えました。

回を重ねるごとに、ママも子どもも訪問を楽しみにしてくれて、「おばちゃん来たね～！絵本読んで～」とリクエストされることもあり、とても楽しく嬉しい時間でした。

孤立しがちなご家庭で最も必要なのは、話を聴いてくれる人の存在であることを、実践からも学びました。

第5期生 上村照子



幼児虐待のニュースが耳に入ってくるたびに、現在子育て真っ最中の私は、心を痛めていたと同時に県外での孤独な子育て経験を思い出し、あのまま孤独な子育てをしていたら私も虐待する側になっていたのではないかと感じていました。そして、母親の心が健康であれば目まぐるしく回っていく毎日でも疲れながらも何とか乗り越えられると自分自身の経験をとおして感じていました。

そんな時にホームスタートを三豊市の広報ではじめて知り養成講座に応募しました。講座が始まる前は2か月間通えるか不安でしたが、いざ受講し始めると様々な専門家の講師の方々の貴重なお話やワークショップをとおして、今までじっくり考えてこなかったことを考えてみたり、知らなかったことを知ったり、とても充実していて、あっという間の2か月間でした。

そして、オーガナイザーや一緒に受講した先輩ママさんとのなにげない会話から得られる子育てのヒントが私の子育て時間をより豊かにしてくれました。

この経験をボランティア活動をとおして次の世代のお母さんにも感じてもらいたいと思いました。

第6期生 小川寛美



この春、Facebook ページを始めました！

「ホームスタート・おりーぶ Facebook」検索



一子育て個別相談一（子どもの虐待防止に関する相談事業）

■利用をご希望の方は、事務所までご連絡下さい。☎087-888-0758

・毎週火曜日の10時～13時の間、当会事務所において個別相談をしています。

地域の一つの居場所になればと思っています。相談室には、絵本の他にも育児や子ども虐待に関する本を置いています。（利用料 1人 100円）

・出前型の相談をはじめました。家庭に訪問して話をうかがいます。（利用料 1家庭 100円）

〔資料の紹介〕

体罰等によらない子育てについて 【厚生労働省】（mhlw.go.jp）

たたかれていい子どもなんて、いないんだよ。pamphlet_A4_ol（mhlw.go.jp）

体罰等によらない子育てを広げよう！ pamphlet_0927_裁ち落とし版（mhlw.go.jp）

健やか親子21 - 妊娠・出産・子育て期の健康に関する情報サイト - 「健やか親子21（第2次）」は、「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現を目指し、関係するすべての人々、関連機関・団体が一体となって取り組む国民運動です。（mhlw.go.jp）

オレンジリボン運動 - 子ども虐待防止（orangeribbon.jp）

体罰によらない子育てハンドブック（tokyo.lg.jp）

体罰によらない、「子どもが伸びる」しつけ教育、実践のために nakamen（kodomosukoyaka.net）

体罰等によらない子育てのために～みんなで育児を支える社会に～（kodomosukoyaka.net）

ちょこっと一場面

猫と父ちゃん

父ちゃんは、猫が好き。家には、3匹のメス猫がいる。数年前、生後間もないチビとシロが迷い込み、その1年後にデビが仲間入り。いつの間にか3匹は父ちゃんの家族になった。チビとシロはとても仲が良く、いつも一緒。でもチビは、デビに対して攻撃的で威嚇するような声をあげて追いかける。猫好きの父ちゃんは、「こらー！仲よくしろ！」と大声で叫ぶが効果はない。先日、シロの行為に驚いた。父ちゃんに叱られたチビが部屋の隅で固まっていると、シロは前足でチビを軽く叩いた。まるで「デビをいじめちゃダメでしょう。」と言っているように。その後、チビはおとなしく寝床で丸まった。シロは、父ちゃんが大好き。チビやデビにも優しく、よその猫に二匹がいじめられようものなら家の外まで追いかけていく。猫の習性は、よくわからないが「気持ちが伝わる」一場面であった。



掲示板

《2022 年度の活動とお知らせ》

- **子育て個別相談**：毎週火曜日 10 時～13 時
会場：当会事務所（託児あり）
★出前型（家庭訪問による相談）を始めます。
- **ひだまり**：毎月 1 回（土）10 時～11 時半
参加希望者は事前にお話をうかがいます。
- **勉強会**：毎月 1 回（金）18 時半～20 時
会場：高松市内コミュニティセンター他
- **家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・おりーぶ」**
 - ・高松市民の方は、高松市養育支援訪問事業、多胎妊産婦支援事業として実施します。
 - ・三豊市民の方は、三豊市産前産後サポート事業として実施します。
- **子育て講座**：子どもの発達をテーマに開催します。詳細は、ホームページ他でお知らせします。
- **講師派遣**：体罰をつかわない子育て、子どもの発達、子ども虐待などの講義ができます。
- **人材育成事業**：家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・おりーぶ」のオーガナイザーとホームビジターの活動に関心のある方は、事務所までお問い合わせください。
 ＊オーガナイザー：利用者とホームビジターを調整する
 ＊ホームビジター：利用者を直接支援する

《会員募集》

会員及び賛助会員を随時募集しております。
ホームページからでも可能です。

★正会員：一緒に活動をしていただける方
（年会費 円4,800）

★賛助会員・団体会員：財政面で支援をしていただける方
（年会費 一口円5,000）

《寄付のお願い》

当会の活動は会員の会費のみが定期収入となっており、事業の運営は助成金や寄付金収入に頼らざるを得ません。子ども虐待を防止するために息の長い地道な活動が期待される中での財政基盤の弱さはいつも心配の種となっております。皆様の温かいご支援を宜しくお願い致します。

＜振込先＞

郵便振替 01630-5-2437

＜加入者名＞

（特）子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ

《寄付等でご支援いただいた方々です》

国際ゾンタ高松ゾンタクラブ 様， 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社 様，
認定こども園春日こども園 様， Salon Beso 様， 赤い羽根共同募金「子どもの虐待を防止するためのプロジェクト募金」にご協力をいただいた皆様，匿名でのご寄付やボランティアで活動支援をしていただいた皆様
ご支援有難うございました。心から感謝申し上げます。

特定非営利活動法人

子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ

ニューズレターNo.29 2022 年 3 月発行

事務所 TEL：087-888-0758 FAX：087-888-1070

ホームページ：<https://kcapn.sakura.ne.jp/>

E メールアドレス：kcapn9999@siren.ocn.ne.jp